

CURATOR公開データ1万件突破！

～1万件目は看護学部COEの研究を報告した学術誌掲載論文

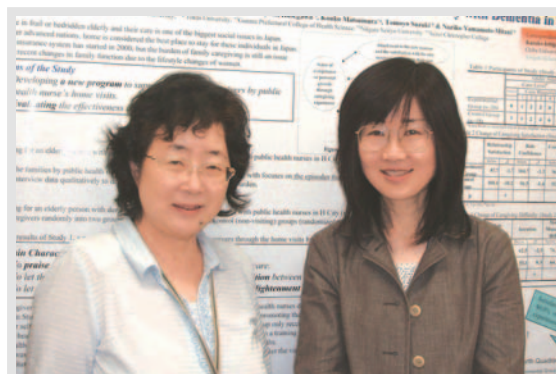
6月にCURATORの公開データは1万件に達しました。1万件目のデータは看護学部の石垣先生、正木先生、中村先生、宮崎先生、山本先生(昨年度退職)の共著の論文“The current state of the center for the creation and dissemination of new Japanese nursing science: The 21st century Center of Excellence at Chiba University School of Nursing”でした。この論文は平成15年度21世紀COEプログラムに採択されて行っている研究をまとめたもので、Japan Journal of Nursing Scienceという英文誌に掲載されました。この論文について、また最近同じリポジトリに収録された『千葉看護学会会誌』について、先生方にお話を伺いました。『千葉看護学会会誌』は千葉大学看護学部の先生方が中心となって発行されていますが、図書館にも他大学からの複写依頼が多くあり、今はコピーを送るのではなく、リポジトリ利用をご案内しています。

石垣和子先生(訪問看護学)、中村伸枝先生(小児看護学)

1万件目となったのがCOEについての論文だったので運命的なものを感じます。またリポジトリにこんなにたくさんのデータが入っていることにも驚きました。

COEではメタ統合という看護学分野ではあまり知られていない方法論を使った研究を行っています。日本文化型看護学をつくることを目指していますが、お手本もなく、試行錯誤の連続でした。また研究対象としている学位論文は量が多く、どうやってまとめるか見えてくるまでが長い道のりでした。

千葉看護学会会誌も、当初学位論文を発信するために始まりました。他の看護学の雑誌では編集方針に合わせたために結果的に論文の良いところがそぎ落とされることがあります。千葉看護学会会誌は、その良さをつぶさず千葉大の学問のつくり方を打ち出す編集方針になっています。多くの利用があるということは、その良さが認められ必要とされている証でしょう。



正木治恵先生(老人看護学)

1万件目のデータになったのはとても光栄で、まるで宝くじにあたったような気分です(笑)。COEは世界に発信したい拠点研究なので、この論文がリポジトリからインターネットで多くの人に利用可能になったのはとてもよいことです。また最近千葉看護学会会誌のCURATOR登録も実現しました。近年増えている、看護学を学ぶ学生、若手研究者をサポートする資源となれば嬉しいです。よく利用される看護学の文献は英文より和文のものが多いのですが、それは日本の看護の臨床に必要な情報を提供しているのは日本語の文献であるという理由によるところが大きいのです。CURATORから発信される千葉看護学会会誌が、最近の大規模な欧文誌電子ジャーナル導入では埋められない看護文献に対する需要に応えるという点で貢献できるのは、大きな喜びです。



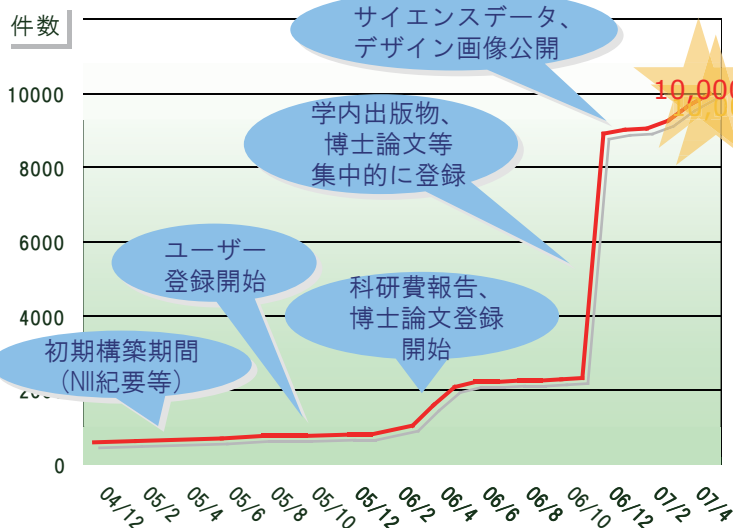
宮崎美砂子先生(地域看護学)

この論文はちょうど2年目の研究成果を述べたものですが、質的メタ統合という未開拓の研究方法で、複数の1次研究を分析・統合しその趣旨を損ねずに個々の論文を上回る新しい概念をつくりだすものです。一つずつからは見えなかった本質的な概念が浮き彫りになります。日本では初めての試みのため他の研究者からもいろいろな質問が集中しますが、周りに興味を持つ人が増えていると感じています。千葉大の看護学部は長い歴史、多様な研究分野を持っていますので、日本の看護学界に大きな影響力を持っていますし、新しい方法を発信していく役割があると思っています。インターネットで広く世界に発信できるリポジトリCURATORにこの論文が収録されたことは大変意義のあることだと思います。



この論文は、著者の先生方が学会を代理している出版社(Blackwell社)に対して出版1年後に論文のリポジトリ登録を許可するという条件で出版を許諾しているため、発表から1年後の6月に公開できることになりました。このように、いくつかの国内学会と多くの海外出版社が一定の条件でリポジトリ登録を許可しています。また図書館では、著者の方を代理して国内のほかの学会等とも必要に応じて協議し、リポジトリからの公開を行っています。インターネットを通じて論文を多くの人に読めるようにするリポジトリは、千葉大学の研究活動を社会に還元するとともに、千葉大学を広報します。ご自分の書かれた論文を登録してみようと思われる方は、どうぞお気軽にご相談ください(連絡先は裏面末尾をご参照下さい)。

CURATOR 1万件までの道のり



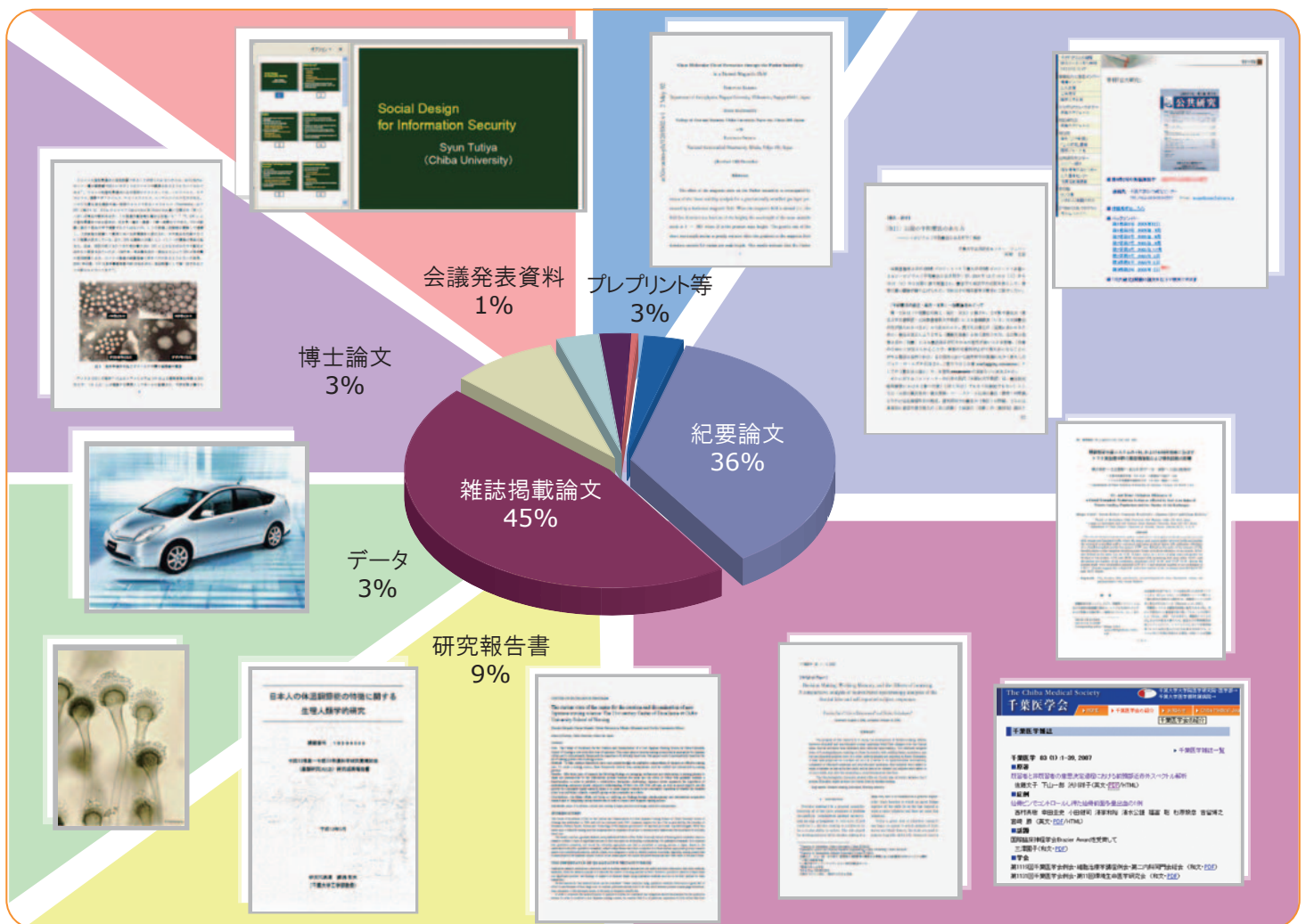
2002年に開発に着手したCURATORは、2005年に国内初の機関リポジトリとして正式に公開されました。この時より、研究者自身のセルフ・アーカイブによるコンテンツ登録を開始しています。

2005年からは、セルフ・アーカイブに加えて、科研費報告書、博士論文等の収集を行っています。

2006年には、NIIの紀要電子化支援とセルフ・アーカイブにより、学内出版物の過去分の多くを登録しました。その間、サイエンスデータなど論文以外のコンテンツの公開も実現し、2007年6月8日、10,000件に到達しました。

今後も教育研究成果を社会に公開することで大学としての説明責任を果たし、教育研究の基盤となるコンテンツを構築することを目指していきます。

CURATOR が公開する千葉大学の教育研究成果 多彩なコンテンツ12,370件 (2007.7.27現在)



CURATORは、今後もこのような学内の貴重な研究教育成果を保存・発信していきます。
研究成果のご提供・登録に関しては、以下のCURATOR担当まで、お気軽にご相談下さい。

登録申請・ファイル送付・お問合せ： 情報部学術情報課 CURATOR担当

tel: 043-290-2253 fax: 043-290-2255 joho@LL.chiba-u.ac.jp